

東京都駐車場の指定管理者の管理運営に関する二次評価
(令和元年度実施分)

東京都八重洲駐車場
(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	A
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始に職員や警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同によるテロ(爆発物)訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 最大料金、駐車時間30分未満無料化など利用者のニーズを反映した利用料金を設定し、積極的にPRを展開した。 ・ 電気自動車の充電設備設置、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 地元や地域のイベント等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 都が行う大規模改修に際し、都との連絡調整、利用者への案内、工事前の作業を積極的に行ったほか、定期契約者の意向調査や他場への契約変更の折衝を計画的かつ丁寧に行い、改修の実施に大きく貢献した。

東京都日本橋駐車場
(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	S
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始に職員や警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同によるテロ(爆発物)訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 地域のまちづくりの動向や駐車需要を見据えた上で、周辺再開発や駐車場の改修予定を考慮して定期契約台数の調整を行うなど、八重洲等5場全体での効果的な運用を図っている。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 最大料金、駐車時間30分未満無料化など利用者のニーズを反映した利用料金を設定し、積極的にPRを展開した。 ・ 電気自動車の充電設備設置、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 前年度と比較して、総利用台数が49,025台(+38.0%)、時間貸利用台数が12,306台(+12.3%)、30分未満無料利用台数が3,099台(+12.6%)と大幅に増加した。 ・ 地元や地域のイベント等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全ての項目で評価が高かった。

東京都駐車場の指定管理者の管理運営に関する二次評価
(令和元年度実施分)

東京都宝町駐車場

(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	A
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始に職員や警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同によるテロ(爆発物)訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 改修中の新京橋駐車場、八重洲駐車場から定期契約車両の多くを受け入れるとともに、時間貸の車室数が限定される中、混雑時には職員が場内誘導を行い、効率的な運用を図っている。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 最大料金、駐車時間30分未満無料化など利用者のニーズを反映した利用料金を設定し、積極的にPRを展開した。 ・ 電気自動車の充電設備設置、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 前年度と比較して、総利用台数が8,433台(+9.1%)増加したが、時間貸利用台数が4,499台(-8.2%)、30分未満無料利用台数が2,547台(-7.9%)減少した。また、再開した新京橋駐車場に定期契約者が戻ったことで定期契約件数が減少したが、収入額は基準額を上回った。 ・ 地元や地域のイベント等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全ての項目で評価が高かった。

東京都新京橋駐車場

(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	A
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始に職員や警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同によるテロ(爆発物)訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 地域のまちづくりの動向や駐車需要を見据えた上で、周辺再開発や駐車場の改修予定を考慮して定期契約台数の調整を行うなど、八重洲等5場全体での効果的な運用を図っている。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 最大料金、駐車時間30分未満無料化など利用者のニーズを反映した利用料金を設定し、積極的にPRを展開した。 ・ 電気自動車の充電設備設置(急速充電器の新設)、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 地元や地域のイベント等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 都が行う大規模改修に際し、都との連絡調整、利用者への案内、工事後の作業を積極的に行ったほか、定期契約者の意向調査や他場からの契約変更の折衝を計画的かつ丁寧に行い、リニューアル後の施設を円滑に再稼働した。

東京都駐車場の指定管理者の管理運営に関する二次評価
(令和元年度実施分)

東京都東銀座駐車場
(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	A
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備保守や利用者サービスの向上など、選定要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始に職員や警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同によるテロ(爆発物)訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 地域のまちづくりの動向や駐車需要を見据えた上で、周辺再開発や駐車場の改修予定を考慮して定期契約台数の調整を行うなど、八重洲等5場全体での効果的な運用を図っている。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両の受入れや、カーシェアリング事業者への定期貸付など、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 最大料金、駐車時間30分未満無料化など利用者のニーズを反映した利用料金を設定し、積極的にPRを展開した。 ・ 電気自動車の充電設備設置、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 前年度と比較して、総利用台数が543台(+0.5%)、時間貸利用台数が2,304台(+2.9%)増加した。 ・ 地元や地域のイベント等に参加し地域の安全確保、活性化に貢献した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全ての項目で評価が高かった。

東京都板橋四ツ又駐車場
(公財)東京都道路整備保全公社

項目	評価内容
二次評価	A
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備保守や利用者サービスの向上など、募集要項等で定められている管理水準を確保するとともに、利用者の利便性の向上を図るなど、良好な管理運営を行った。 ・ 消防署と連携し自衛消防訓練、消火訓練等を実施した。 ・ 大型連休期間や年末年始に職員や警備員を増員し、巡回頻度の増加など警備を強化した。 ・ 警察署との合同によるテロ(爆発物)訓練を行うなど場内の更なる安全性向上を図った。 ・ 天井からの漏水のため閉鎖中の車室がある中で、修繕により利用可能車室を確保するなど、継続的な工夫により効率的な運用を図っている。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の工事現場、公共施設、周辺企業等に案内チラシを配布し、駐車場利用の向上を図った。 ・ 駐車時間30分未満無料化と併せた荷さばき車両やパーク&ライドの受入れなど、環境施策や地域の駐車対策に寄与した。 ・ 電気自動車の充電設備設置、低公害車の割引等、電気自動車や低公害車の普及促進に寄与した。 ・ 前年度と比較して、総利用台数が1,681台(+3.6%)、時間貸利用台数が2,642台(+13.6%)と増加した。 ・ 利用者アンケートによる利用者満足度は、全ての項目で評価が高かった。

グループ名	都市部の公園・東部グループ
指定管理者名	アメニス東部地区グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
1	猿江恩賜公園	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亀戸中央公園では、多目的広場利用団体に対し、主要利用団体と協議の上、利用マナーの自己チェックシートを作成し、利用団体に毎回利用してもらうことにより、喫煙等の苦情の減少と広場の適正利用につなげた。また、サザンカの名所としての復元のため、専門家のアドバイスをを受け苗の育成を継続するとともに、チャドクガ巡回を実施し、被害の発生を抑える成果を上げた。 ・大島小松川公園では、大雨による六価クロム滲出水について、都と協議の上、迅速に汚染水を地下に抑え込む対策工事を実施するとともに、巡回員と責任者で毎日午前と午後各2回の点検と洗浄等の必要な措置を実施し、安全対策に尽力した。 ・大島小松川公園でFAXの誤送信が発生した。送信ルールの見直し、添付ファイルのパスワード設定によるセキュリティの強化及び職員教育を実施していることから、この取組を徹底し、再発防止に努められたい。 	B
2	亀戸中央公園	A	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、地域団体等と協働した多様な企画が誕生し、また、ボランティア参加による美しい花壇も増えるなど、地域協働のノウハウが積み上げられている。 ・猿江恩賜公園では、毎年恒例の「チューリップフェスタ」を今年も開催し、キャンドルナイトなど夜の利用促進に努めるとともに、効果的な広報によりニュースでも取り上げられ、参加者が昨年度比約150%となった。また、森のギャラリーとしてプロの作品を展示して、アート空間が創出された。また、「森のギャラリー」は事業効果としては見逃されがちであるが、新たな「公園の風景」をさりげなく演出する意味で「深化」させることを期待する。 ・亀戸中央公園では、公園内の素材を生かした季節のワークショップを毎月開催し、人気のどんぐりイベントのほか、予約なしでも参加できるイベント「鬼の塗り絵」や開催日数を増やした「ミニ門松作り」などの工夫で、昨年度の倍である延べ2,518人が参加した。 ・尾久の原公園では、昨年ネーミングした「おぐのはら森のマルシェ」の定着を目指し、回数を増やして実施するとともに、荒川区からの依頼で区主催のシダレザクラ祭りに参加し、地元の協力を得て38ブースを出店することができ、従来の参加団体によるイベントとあいまって、過去最高15,000人の集客に貢献した。 	A
3	尾久の原公園	B	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、地域団体等と協働した多様な企画が誕生し、また、ボランティア参加による美しい花壇も増えるなど、地域協働のノウハウが積み上げられている。 ・猿江恩賜公園では、毎年恒例の「チューリップフェスタ」を今年も開催し、キャンドルナイトなど夜の利用促進に努めるとともに、効果的な広報によりニュースでも取り上げられ、参加者が昨年度比約150%となった。また、森のギャラリーとしてプロの作品を展示して、アート空間が創出された。また、「森のギャラリー」は事業効果としては見逃されがちであるが、新たな「公園の風景」をさりげなく演出する意味で「深化」させることを期待する。 ・亀戸中央公園では、公園内の素材を生かした季節のワークショップを毎月開催し、人気のどんぐりイベントのほか、予約なしでも参加できるイベント「鬼の塗り絵」や開催日数を増やした「ミニ門松作り」などの工夫で、昨年度の倍である延べ2,518人が参加した。 ・尾久の原公園では、昨年ネーミングした「おぐのはら森のマルシェ」の定着を目指し、回数を増やして実施するとともに、荒川区からの依頼で区主催のシダレザクラ祭りに参加し、地元の協力を得て38ブースを出店することができ、従来の参加団体によるイベントとあいまって、過去最高15,000人の集客に貢献した。 	B
4	東綾瀬公園	A	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、地域団体等と協働した多様な企画が誕生し、また、ボランティア参加による美しい花壇も増えるなど、地域協働のノウハウが積み上げられている。 ・猿江恩賜公園では、毎年恒例の「チューリップフェスタ」を今年も開催し、キャンドルナイトなど夜の利用促進に努めるとともに、効果的な広報によりニュースでも取り上げられ、参加者が昨年度比約150%となった。また、森のギャラリーとしてプロの作品を展示して、アート空間が創出された。また、「森のギャラリー」は事業効果としては見逃されがちであるが、新たな「公園の風景」をさりげなく演出する意味で「深化」させることを期待する。 ・亀戸中央公園では、公園内の素材を生かした季節のワークショップを毎月開催し、人気のどんぐりイベントのほか、予約なしでも参加できるイベント「鬼の塗り絵」や開催日数を増やした「ミニ門松作り」などの工夫で、昨年度の倍である延べ2,518人が参加した。 ・尾久の原公園では、昨年ネーミングした「おぐのはら森のマルシェ」の定着を目指し、回数を増やして実施するとともに、荒川区からの依頼で区主催のシダレザクラ祭りに参加し、地元の協力を得て38ブースを出店することができ、従来の参加団体によるイベントとあいまって、過去最高15,000人の集客に貢献した。 	A
5	中川公園	B	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、地域団体等と協働した多様な企画が誕生し、また、ボランティア参加による美しい花壇も増えるなど、地域協働のノウハウが積み上げられている。 ・猿江恩賜公園では、毎年恒例の「チューリップフェスタ」を今年も開催し、キャンドルナイトなど夜の利用促進に努めるとともに、効果的な広報によりニュースでも取り上げられ、参加者が昨年度比約150%となった。また、森のギャラリーとしてプロの作品を展示して、アート空間が創出された。また、「森のギャラリー」は事業効果としては見逃されがちであるが、新たな「公園の風景」をさりげなく演出する意味で「深化」させることを期待する。 ・亀戸中央公園では、公園内の素材を生かした季節のワークショップを毎月開催し、人気のどんぐりイベントのほか、予約なしでも参加できるイベント「鬼の塗り絵」や開催日数を増やした「ミニ門松作り」などの工夫で、昨年度の倍である延べ2,518人が参加した。 ・尾久の原公園では、昨年ネーミングした「おぐのはら森のマルシェ」の定着を目指し、回数を増やして実施するとともに、荒川区からの依頼で区主催のシダレザクラ祭りに参加し、地元の協力を得て38ブースを出店することができ、従来の参加団体によるイベントとあいまって、過去最高15,000人の集客に貢献した。 	B
6	大島小松川公園	B	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、地域団体等と協働した多様な企画が誕生し、また、ボランティア参加による美しい花壇も増えるなど、地域協働のノウハウが積み上げられている。 ・猿江恩賜公園では、毎年恒例の「チューリップフェスタ」を今年も開催し、キャンドルナイトなど夜の利用促進に努めるとともに、効果的な広報によりニュースでも取り上げられ、参加者が昨年度比約150%となった。また、森のギャラリーとしてプロの作品を展示して、アート空間が創出された。また、「森のギャラリー」は事業効果としては見逃されがちであるが、新たな「公園の風景」をさりげなく演出する意味で「深化」させることを期待する。 ・亀戸中央公園では、公園内の素材を生かした季節のワークショップを毎月開催し、人気のどんぐりイベントのほか、予約なしでも参加できるイベント「鬼の塗り絵」や開催日数を増やした「ミニ門松作り」などの工夫で、昨年度の倍である延べ2,518人が参加した。 ・尾久の原公園では、昨年ネーミングした「おぐのはら森のマルシェ」の定着を目指し、回数を増やして実施するとともに、荒川区からの依頼で区主催のシダレザクラ祭りに参加し、地元の協力を得て38ブースを出店することができ、従来の参加団体によるイベントとあいまって、過去最高15,000人の集客に貢献した。 	B
7	宇喜田公園	B	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、地域団体等と協働した多様な企画が誕生し、また、ボランティア参加による美しい花壇も増えるなど、地域協働のノウハウが積み上げられている。 ・猿江恩賜公園では、毎年恒例の「チューリップフェスタ」を今年も開催し、キャンドルナイトなど夜の利用促進に努めるとともに、効果的な広報によりニュースでも取り上げられ、参加者が昨年度比約150%となった。また、森のギャラリーとしてプロの作品を展示して、アート空間が創出された。また、「森のギャラリー」は事業効果としては見逃されがちであるが、新たな「公園の風景」をさりげなく演出する意味で「深化」させることを期待する。 ・亀戸中央公園では、公園内の素材を生かした季節のワークショップを毎月開催し、人気のどんぐりイベントのほか、予約なしでも参加できるイベント「鬼の塗り絵」や開催日数を増やした「ミニ門松作り」などの工夫で、昨年度の倍である延べ2,518人が参加した。 ・尾久の原公園では、昨年ネーミングした「おぐのはら森のマルシェ」の定着を目指し、回数を増やして実施するとともに、荒川区からの依頼で区主催のシダレザクラ祭りに参加し、地元の協力を得て38ブースを出店することができ、従来の参加団体によるイベントとあいまって、過去最高15,000人の集客に貢献した。 	B

グループ名	都市部の公園・南部グループ
指定管理者名	東京南部パークスグループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
8	日比谷公園	S	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、昨年度は、猛威を振るった台風15号・19号が相次いで上陸したが、それぞれの公園の特性を考慮した事前の備えを入念に行うとともに、台風通過後も適切な対応により園内の安全確保と迅速な復旧を実現させた。安全・安心に寄与する地道な取組は評価に値する。 ・日比谷公園では、皇室パレード対応や東京2020大会に向けた様々な園内工事が施工される中、園内を安全に利用できるような多くのイベント等との利用調整を行った。また、ネモフィラ花壇を新たに整備し、魅力的な花壇管理を実施するなど、開花期には多くの方が訪れるきっかけを創出した。 	S
9	芝公園	A	<ul style="list-style-type: none"> ・芝公園では、巡回及び関係部署との連携により、ホームレスの新規滞留を防いだ。また、大規模イベントの適正実施のため主催者との事前調整、当日の合同朝礼や丁寧な指導を行い、集客数28万人規模の大規模イベントの際もクレームや混乱もなく実施できた。 ・林試の森公園では、例年多くの苦情やご意見を受けていた喫煙所の問題に対し、対策方法を検討し、利用状況調査や事前周知を行い、利用者の納得を得られる喫煙所の集約及び移設を行った。 ・蘆花恒春園では、台風19号接近の際に、都指定史跡である徳富蘆花旧宅「秋水書院」の明治時代の貴重な窓ガラスを、職員の提案でストレッチフィルムにより全て養生し被害から防いだ。 	A
10	青山公園	B	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日比谷公園では、日比谷公園大音楽堂と連携した「日比谷音楽祭」や民間企業と連携し拡大実施した「日比谷アカリテラス」などのイベントを企画調整し、来園者の増加及び公園の魅力向上を図った。また、昨年度に引き続き「日比谷公園パークミーティング」を開催し、昨年度より具体的な議論や再整備計画などの重要な情報が共有される場となったことで、エリア連携の場として強く認知されるようになった。イベント開催やパークミーティングを通して、関係者間でエリア全体の魅力形成の方向性を共有できたことは、将来につながる成果と思われる。さらに、東京2020大会や天皇陛下御即位儀式等の国家行事には、警察署と密な連絡体制を取り、テロ対策の訓練や講習会を実施した。 	B
11	林試の森公園	A	<ul style="list-style-type: none"> ・芝公園の「自然観察会（星空観察会）」では、昨年度好評であった内容を更に充実させ、持ち帰り学習が可能なワークシートを新規開発し、1日2回の短時間のイベントに250人もの参加者を得た。また、「スポーツプログラム」では、有名企業を誘致して連携を図り、トランポリンフィットネスイベントを実施し、定員の約8倍の800名の参加があった。 ・林試の森公園の「林試の森フェスタ」では、参加数の増加に伴いイベント時の園内環境維持が課題視されていたが、中高生や一般社会人にも積極的に誘致活動を行い園路や駐輪場整理のボランティアを増加させることで、4万人以上が参加する地域連携イベントをより安全に実施するとともに、地域と一体となった賑わいの創出に貢献した。 	A
12	蘆花恒春園	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日比谷公園大音楽堂では、大音楽堂をメイン会場に日比谷公園全体を活用した「日比谷音楽祭」を2日間開催した。企画段階から実施まで、大音楽堂は中心的な役割を果たし、延べ10万人を超える来園者で大盛況となった。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、WEBで取り上げられ、施設のPRや日比谷公園の魅力の向上などに寄与した。また、建設局が主導して日比谷公園大音楽堂で開催した東京2020大会気運醸成イベントに当たり、大音楽堂のネットワークを活用して、利用調整のほかに趣旨に合致するイベントの誘致にも尽力するとともに、HP等による周知やPRなど、東京都と連携して大会PRを積極的に行った。これらの取組は、リニューアルオープンした大音楽堂のPRに加え、日比谷公園全体のイメージアップにも大きく貢献した。今回得た経験やノウハウを蓄積し、今後の施設管理やイベント調整等に活かすことを期待する。 	B
13	祖師谷公園	B		B
14	日比谷公園大音楽堂	A		S

グループ名	都市部の公園・北部グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
15	戸山公園	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、各公園は素材としては美しいものを持っているので、浮間公園をはじめとして、機能だけでなくランドスケープの視点をより一層高められたい。 ・戸山公園では、都、区、警察及びNPOと連携し、ホームレスの不適正利用に対する指導や自立に向けての説得により、テントゼロを継続しているほか、10年以上にわたる早朝利用による騒音に対する苦情解決のため、行為者との粘り強い調整を図り、公園利用の適正化を図った。また、近隣の日本語学校と防災訓練を実施し、英語版防災施設リーフレットを活用するなど、消防と連携した消火体験等を通じて留学生達に防災の心構えを啓発した。さらに、地域や企業等が協力して進める「内藤とうがらしプロジェクト」と連携して新たにとうがらし花壇を整備し、江戸野菜「内藤とうがらし」の復興に取り組んだ。すでに、2010年頃から復興プロジェクトが始まりいくつかの料理での有用性が知られていることから、東京の大きな特産品として成長することが望まれる。コロナ禍で、外出から自粛の時間が増加している中、江戸野菜等の家庭での普及について、プロジェクトとして取り組み、自主事業の収益源として検討されたい。 ・浮間公園では、釣りを通じて池の自然を知るイベントにより、参加者に浮間ヶ池に棲む魚の紹介を行った。併せてブルーギル等の特定外来生物が池に与える影響を説明し、マナーと防除の大切さを共有した。また、近隣ビルと連携した防災訓練を初めて実施し、公園内の防災施設紹介やパネル展示を通じて、共助の意識と地域連携を深めた。 ・赤塚公園では、ボランティアとの協働によって都内最大のニリンソウの自生地を適正管理するとともに、「ニリンソウ月間」を設定した。各種イベントの実施に加え、新聞や地域ケーブルテレビニュースでもニリンソウ月間が取り上げられたことにより、広く生態系保護の普及啓発にもつながった。 <p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸山公園では、ボランティアとの協働による「陽だまりの丘」の花壇づくり、大久保つつじの管理を進めており、専門講師による研修を通じてボランティアのスキルアップなどの支援も行うなど、都民協働の取組を進めた。（ボランティア団体が「みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰」を受賞） ・善福寺公園では、「手ぶらで写生会」において職員手作りの樹木スタンプを豊富に用意するなどした結果、多くの親子連れが参加し、また、ワークショップでは公園の発生材を利用したコースター作り等に計350人が参加した。 ・浮間公園では、北区、板橋区及び商店会と調整を重ね地元産品やアート作品等を販売する地域発掘マーケットを開催した。今後の継続発展が期待される。近隣4保育園に花壇づくりへの参加を新たに呼びかけ、既存の花壇ボランティアを含む115人でタネだんごづくりと植付けを実施した。また、誰でも参加しやすいポッチャ、ジャベリックボール、キックスピード測定等を楽しむ「スポーツチャレンジ」を開催した。地域センターや保育園等の広報協力を得て、下は2歳児から上は80代まで、当初予定を大幅に上回る181名が参加し、パラスポーツの紹介等により、東京2020大会の機運の醸成と健康増進に寄与した。 ・赤塚公園の野外アートイベント「東京五感公園」では、高島平地域のアーティストや小中高・特別支援学校へ協力を呼びかけ、ハロウィンにちなんだ野外作品展示やワークショップ、マルシェ、ジャスライブ、仮装大会等を実施した結果、参加者は昨年度比218%の3,700人に増加し、地域の賑わい創出に大きく寄与した。「アート」をキーワードとすることで、地域の様々な才能・人材を引き出すことに成功しており、今後の広がりが期待される。 ・石神井公園において鉄道会社と連携した「沿線のウォーキング・ハイキングイベント」では、参加者にパンフレット等を配布しながら公園案内することで、普段は利用されない遠方からの利用者も含め公園の魅力を広くアピールすることができた。 ・大泉中央公園では、東京2020大会射撃競技会場に隣接することから、こども射撃（射的）や誰でも参加しやすいポッチャ等の8種目を体験するイベント「ユニバーサルスポーツ・チャレンジ」を開催し、スポーツ機運の醸成を図った。 	B
16	善福寺公園	B		B
17	浮間公園	A		A
18	赤塚公園	B		B
19	石神井公園	B		B
20	大泉中央公園	B		B

グループ名	武蔵野の公園グループ
指定管理者名	西武・武蔵野パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
21	武蔵野公園	A	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、市民参加を促すノウハウを備えた、専門性のあるスタッフを育成・配置することで、どの公園も高いレベルでのボランティア育成型及び地域連携型のイベント企画、ガーデニング、環境保全等を実現している。 ・武蔵野公園では、野球場グラウンドの本格的な改修を実施したことにより、雨天による使用不可期間が大幅に短縮した。また野球場整備のため導入したスポーツトラクターにより、グラウンドのメンテナンスがより充実し、結果スポーツ施設の利用が拡大し、利用者へのサービス向上につながった。さらに開園から55年が経過し、老朽化で頻りに漏水していた給水管（メイン管）を3年かけて全て改修した。 	A
22	浅間山公園	A	<ul style="list-style-type: none"> ・浅間山公園では、前年までに完成した「保全管理ガイドライン」に基づき、産官学民の多様な主体とともに管理作業を進めているが、都内の公園緑地で雑木林管理活動等を行っている18市区町村47団体による市民交流会の視察先となり、ガイドラインの成果を発表し、都内の雑木林保全の先進事例として注目を集めた。 ・野川公園では、継続的に実施されている動植物のモニタリング調査や市民団体との情報交換などを含め、豊富な知見に基づく湿地帯の管理作業を行うとともに、近隣の教育機関などと連携し、外来種の駆除を積極的に行い、正しい知識の普及啓発にも取り組んだ。 	A
23	野川公園	S	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵国分寺公園では、国分寺崖線の野鳥の森でボランティアとの連携により、外来種の選択的除草や落葉掻きなど順応的な保全管理を実施した。キンランなどのラン類の網掛け対策を実施することで結実率が90%以上になり、次世代株の育成に成功した。また、高圧受電設備の交換工事のほか、手すり支柱を予防保全的にアーク溶接し施設長寿命化した。 ・東伏見公園では、利用者アンケートにおける来園目的は「子供の遊び（付添）」が最も多いことから、子供がより安全に遊べるよう、遊具周辺をゴムチップ舗装に改修するなど安全性を考慮した施設管理を行った。 	S
24	狭山・境緑道	B	<p>【事業評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体としてBBQのWEB予約及び有料ゴミ袋回収サービスを開始し、公園利用者の利便性を向上させるとともに、前年度近隣より苦情の多かった不法投棄を減少させることにつなげた。 	B
25	玉川上水緑道	B	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野公園では、国内外の方のボランティア活動の入り口として、ボランティアプログラム「ちよいボラDAY」を初開催し花壇づくりを行った。アンケートでは満足度100%を得ることができ、公園のリピーター獲得に寄与した。また、「はけのおいしい朝市」実施に当たり、パークコーディネーターが実行委員会と綿密な調整を重ねてきたことで、過去最高の4,796人が参加するイベントになった。さらにワークショップやパークレンジャーによるさくらガイドウォークなどを実施し、来園者のニーズに応え、地域活性化と公園の利用促進につなげた。 	B
26	武蔵国分寺公園	S	<ul style="list-style-type: none"> ・浅間山公園では平時からの連携が功を奏し、台風被害発生時等には、近隣の大学、企業、市民団体等多様な主体が主体的に復旧作業に参加した。 ・野川公園では、レンジャーの仕事を経験する子供向けプログラム「キッズレンジャースクール」は昨年度からのリピーターが参加するとともに、参加者満足度が100%となる大変人気のイベントとなった。また、近隣の中学校、都立高校、大学等から、総合学習やインターンなどを継続して受け入れ、外来種の除去や希少種の保全管理作業を行うなど、教育機関等との連携を促進した。さらに、初開催の「森の地図フェスタ」では、地元の飲食店のマルシェや地域作家のワークショップを展開し、地域の各団体との連携強化を図った。 	S
27	東伏見公園	B	<ul style="list-style-type: none"> ・狭山・境緑道では、沿道の56件ものパートナー契約により魅力的な緑化が実現したのは、高く評価できる。 ・玉川上水緑道では、沿道のカフェを中心に実施されている地域のイベントのマルシェ開催時に、相乗効果のあるパークレンジャーによるガイドウォークや公園紹介ブースを設置し、公園への関心を高めた。 	B
28	六仙公園	B	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵国分寺公園では、「あったらいいな」をみんなでつくるプロジェクトを推進し、市民参加による賑わいのある公園として定着している。今年度は、地元作家グループによる「てのわ市」において新たに野鳥の森で大型作品展を開催し、昨年を上回る出店者101組、7,500人の参加があった。また、歴史と自然の両面から公園や地域の魅力を再確認するプログラム「ディスカバリーツアー野鳥編」を国分寺市と共催して実施した。幅広い年齢層に公園の普段とは違う魅力を紹介し、公園の利用向上につなげた。 ・東伏見公園では、スポーツが苦手な子供でも楽しく運動の基本動作を身につけられる「遊びプログラム ヘキサスロン」を導入し、地域の子供達の運動能力の向上と東京2020大会への機運醸成につなげた。 ・六仙公園では、地域住民で構成された実行委員会と「麦の収穫祭～東久留米麦まつり～」を開催し、地場作物や伝統を広く周知した。地元のパン屋、市民団体、学校法人、アーティスト等との連携によるプログラムを充実させることで、地域住民をつなぐコミュニティ形成の場として多くの参加者を得ることができ、昨年度の1.5倍の3,063人が参加した。 	B

グループ名	多摩部の公園グループ
指定管理者名	西武・多摩部の公園パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
29	陵南公園	S	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陵南公園では、昨年から引き続き、ヤマアカガエルの卵塊の保護を実施した。希少種の保全のための良好な環境づくりを推進し、新たに昆虫ビオトープ内にて希少種のショウリョウバッタモドキを確認するなど成果を上げている。 ・小宮公園では、公園ボランティアと協働で13の野草保全区を管理し、ワダソウ、キンラン、ギンラン等の希少種の増殖に成功した。また、園内で絶滅していたヤマアカガエルについて、地域遺伝子の卵を近隣から譲り受け、仮設の池を作り、保護及び増殖を開始した。 ・大戸緑地では、要望の多かったアクセス案内の課題を解決するため、案内板設置へ向けて設置箇所の調査や近隣住民へ働きかけを行い、地域の理解と協力を得て、9ヶ所に案内板を設置し、アクセス案内の改善を図った。 	S
30	小宮公園	A	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、公園の環境保全やガーデニングなどの市民参加について、気軽に入れる入口で参加の裾野を広げ、その中から専門性の高いボランティアを育成していく仕組みがきちんとプログラムされている。年々そのノウハウが積み上げられ、公園運営に関わる人の輪が厚くなっていることが評価できる。 ・陵南公園では、新規に「青空Smile親子Fes♪」を開催し、市内の保育施設、子育て応援企業、大学生等と連携して親子プログラムを実施し、これまで構築してきた地域関係者との信頼関係の更なる発展につなげた。また、学生ボランティアが、ばったランドの外來種除去やじゃぶじゃぶ池のおたまじゃくし保護などの保全作業、親子向け体験プログラム「KIDS DAY」の開催などを行い、年間17回延べ287人が参加した。さらに、コミュニティガーデン講座の昨年度修了生によるボランティアグループ（ガーデンサポーター）を新規に立ち上げ、講座のサポートや花壇づくりなどを担ってもらい、協働の取組を更に推進した。加えて、「こもれびピクニック」を地域の子育て世代が運営する団体と初めて共催し、計20種の出展や体験プログラムを実施した。公園に賑わいを創出し、参加者から好評の声を多数得るとともに、地域の活性化につなげた。 	A
31	滝山公園	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小宮公園では、雑木林マイスター入門講座を初開催し、講義後すぐに外で実践を行ったことで、講座内容の理解を深め、保全活動の技術をよりわかり易く提供した。講座終了後にはプレボランティアとして9名が登録し、雑木林保全活動の拡充につなげた。また、野草・野鳥・花壇グループのボランティア活動については、延べ活動参加人数は昨年度よりも多い1,243人に上り、益々活発化している。さらに、年齢や障害の有無に関わらず参加できる様々な学習プログラムやボランティア活動、合同勉強会などを用意しており、多くの地域住民がいきいきと活動できる環境を整えて提供している。加えて、30年度に作成した「環境教育・総合学習のてびき」を基に学校と調整し、近隣小学校の総合学習として延べ600人の受入れを行ったほか、八王子市の「地域子育てひろば事業」との共催による未就学児を対象とした「小宮公園☆ぼうけん広場」を6回開催し、パークレンジャーの開発によるアクティビティを提供するなど、環境教育の拠点としての利用が広がった。 	B
32	大戸緑地	A	<ul style="list-style-type: none"> ・滝山公園では、2021年の開城500年に向けて、滝山観光まちおこし実行委員会と協働で遺構景観（空堀等）を見せる草刈りを実施した。また、NPOとの連携により公園の自然や歴史を英語で解説する「滝山城攻めツアーin English」を開催し、山城公園の魅力を外国の方に向けて発信した。 ・大戸緑地では、今年3回目の開催となる「あつまれ！森キッズ」において、大人気プログラムとなったスーパーツリーイング体験のほか、クラフト、マルシェ、ガイドウォーク、冒険あそび等のプログラムに延べ565人が参加した。 	A

グループ名	狭山丘陵グループ
指定管理者名	西武・狭山丘陵パートナーズ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
33	狭山公園	A	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、自然環境の保全に係る専門性、環境学習プログラム、ボランティア参加プログラムについてのスタッフのスキルアップが図られていることが評価できる。それらに係る新しい手法が各公園で研究開発され、グループ全体で共有化されていることが全スタッフの向上心やスキルアップにつながっている。 ・狭山公園では外来種ムネアカハラビロカマキリの識別シートを園内にて掲示及び配布を行い、目撃情報を集めることで、来園者にも監視する目となってもらい、効率的に駆除を実施した。今年度は成虫11匹及び卵鞘約90個の駆除につながった。 ・八国山緑地では、ふたつ池下池の埋土種子発芽を促すことを目的に、51本の大径木を伐採し、光環境を大きく改善させた。実施に当たっては懇談会を開き丁寧な説明を行うとともに参加者意見を取り入れることで、参加者全員の合意を得た。 	A
34	八国山緑地	B	<ul style="list-style-type: none"> ・東大和公園では、開園40周年を機にアカマツ保全管理計画を作成した。計画に基づき、アカマツ広場周辺の高木約60本を伐採するとともに、実生の活着を向上させるため地掻きを行い、アカマツ林の再生・更新へ着手した。なお、計画作成に当たっては、わいわいミーティング（懇談会）を開催し、現地確認及び意見交換を行い賛同を得た。また、2年前に策定した「森のあそび場 樹林管理計画」に基づき、ボランティアと協働で手入れを行い、40周年に合わせて「森のあそび場」エリアをオープンした。 	B
35	東大和公園	B	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狭山公園では、「コミュニティガーデン講座」の内容を更新し、経験者が初心者をサポートする体制を確立したことで、参加者数が前年度比193%と大幅に増加した。また、「キッズレンジャー養成」を毎年プログラムとして初めて開催した。さらに、小学生向けなど年齢に合わせたプログラムを充実させるとともに、定員を拡充したり参加するそれぞれの家族に合わせてレクチャーするなど、多くの工夫を実施した。これにより参加者から高い満足度を得ることができ、「東村山市子育てにやさしい大賞」の受賞につながった。加えて、前期より実績を重ねてきた都県境を越えた狭山丘陵周辺の自治体、団体、店舗等との広域連携をベースに、狭山丘陵広域観光連携事業等と連携した新規の取組を実施した。特に「狭山丘陵フォトロゲイニング」は競技エリア拡大により、参加者が前回比153%と増加した。 	B
36	野山北・六道山公園	S	<ul style="list-style-type: none"> ・八国山緑地では、今年度初めて、隣接する地元小学校の「総合的な学習の時間」の受入れを実施。身近な自然を学び、調べ、守り、伝える多様なプログラムを提供し、延べ744人が参加した。また、都からの要請に基づき土砂災害警戒区域の傾斜地の定期調査やひび割れ箇所の定点計測を実施し、結果報告により周辺住民の不安の軽減に寄与した。 	S
37	中藤公園	B	<ul style="list-style-type: none"> ・東大和公園では、開園40周年記念事業を実施した。ロゴ作成や記念ポスター掲示、記念グッズ作成、クイズラリーを実施した。特にクイズラリーでは計111人が参加し、当公園単独のイベントとしては過去最高人数となった。初めて公園を訪れた人が多く、公園の利用促進につながった。 ・野山北・六道山公園では、公園ボランティアに新規に105人が登録するとともに、全体では25種類の活動を実施し、延べ4,533人が活動に参加した。また、里山の自然により親しんでもらうことを目的に、アウトドア企業と連携して「SATOYAMA DAY CAMP」を実施した。火起こし体験やテント設営のレクチャー、雑木林保全活動紹介など日常では体験できない内容により、アンケートでは参加者全員から非常に高い評価を得て満足度100%となった。 	B

グループ名	多摩丘陵グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
38	長沼公園	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、この地域の特色を生かした「里山の風景と自然の復元」についての具体的な目標（生態系、個別の動植物など）を設定し、市民への啓発や参加型の保全活動を展開している。併せて地域との協働による、里山ならではの活動プログラムを開発しているところがある。 ・小山田緑地では、下草刈や高木剪定、自生地保護柵設置などの多様な保全策を展開し、ヒロハノカワラサイコ、コケリンドウ等の絶滅危惧種の保全に地道に取り組んだ結果、株数増加及び群落面積拡大につながり、野草観察の楽しさを増やすことができた。 ・小山内裏公園では、ビオトープ池の輪伐による開放水面確保、ヨシの根切り及び浚渫(しゅんせつ)による水深の確保等、キイトンボの成虫及び幼虫の生態を踏まえた植生管理を行った結果、キイトンボの増殖につながった。また、絶滅危惧種であるカワラケツメイ、カタクリについても、手刈りによる選択的除草、保護柵設置、採種播種等地道な取組が実を結びカワラケツメイは前年比25倍の約1250株、カタクリは新世代の芽吹きが確認されるなど保全の成果を着実に上げた。 ・桜ヶ丘公園の防災訓練では新たな自治会、大学にも参加を呼びかけた結果、地域住民、警察、消防、市役所、社会福祉協議会等、前回の2倍以上の250人が参加する防災訓練となった。 ・小山内裏公園では、庁有車の自損事故が発生した。多摩丘陵グループ公園内で事故原因及び再発防止策を共有し、毎朝のミーティングで健康チェックを実施することで安全管理の徹底に努めるようにした。 	B
39	平山城址公園	B	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長沼公園では、公園職員とボランティア団体講師の案内によるキノコ観察会において、40種のキノコを通して、4歳から80歳までの幅広い参加者に対し、公園の生態系の豊かさを伝えるとともに、丘陵地ボランティアの存在と活動をアピールした。 ・長沼公園と平山城址公園を結ぶガイドウォーク「新緑の長沼・平山城址公園を歩こう」では、例年、両公園の間に位置する近隣大学の敷地を迂回するルートで実施していたが、一昨年から大学の敷地への働きかけの結果、大学の協力が得られ、長沼公園と平山城址公園を結ぶ大学の敷地内を通行可となる尾根道ルートが実現した。協働の取組によって「長沼・平山城址公園を歩こう」イベントの魅力を高めることに成功した。 ・小山田緑地の特徴を生かした楽しく学んで育む「田んぼ活動」では、関係団体と公園による環境学習プログラムなど協働のメリットを十分に活かした取組を行った。参加者は過去最高の約1,200人を数え、公園が核となった協働によるコミュニティづくりとして成果を上げた。 ・小山内裏公園では、これまで行ってきた協働育児事業「ゆうゆうくらぶ」を開催した。近隣学校の保育実習生が参加するなど新たな連携により、主催者、利用者及び実習生という新たなコミュニケーションが生まれ、交流の場を創出した。また、初めてサンクチュアリガイドツアーを実施し、安全管理の工夫や重要性を伝えるとともに、サンクチュアリの保全だけではなく活用面からの管理運営にも取り組んだ。 ・桜ヶ丘公園では、雑木林ボランティアと協働で運営する1年間にわたる田んぼの活動において、無農薬、冬期湛水という昔ながらの稲作を行った。収穫祭では、もちつき体験と草木染めの実演をボランティアと協働で行い、里山の衣食についての文化を楽しく学べる場を提供するとともに、公園と地域の子供たち、ボランティアとの交流の場として地域に根付いた協働の活動とすることができた。 	B
40	小山田緑地	A	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長沼公園では、公園職員とボランティア団体講師の案内によるキノコ観察会において、40種のキノコを通して、4歳から80歳までの幅広い参加者に対し、公園の生態系の豊かさを伝えるとともに、丘陵地ボランティアの存在と活動をアピールした。 ・長沼公園と平山城址公園を結ぶガイドウォーク「新緑の長沼・平山城址公園を歩こう」では、例年、両公園の間に位置する近隣大学の敷地を迂回するルートで実施していたが、一昨年から大学の敷地への働きかけの結果、大学の協力が得られ、長沼公園と平山城址公園を結ぶ大学の敷地内を通行可となる尾根道ルートが実現した。協働の取組によって「長沼・平山城址公園を歩こう」イベントの魅力を高めることに成功した。 ・小山田緑地の特徴を生かした楽しく学んで育む「田んぼ活動」では、関係団体と公園による環境学習プログラムなど協働のメリットを十分に活かした取組を行った。参加者は過去最高の約1,200人を数え、公園が核となった協働によるコミュニティづくりとして成果を上げた。 ・小山内裏公園では、これまで行ってきた協働育児事業「ゆうゆうくらぶ」を開催した。近隣学校の保育実習生が参加するなど新たな連携により、主催者、利用者及び実習生という新たなコミュニケーションが生まれ、交流の場を創出した。また、初めてサンクチュアリガイドツアーを実施し、安全管理の工夫や重要性を伝えるとともに、サンクチュアリの保全だけではなく活用面からの管理運営にも取り組んだ。 ・桜ヶ丘公園では、雑木林ボランティアと協働で運営する1年間にわたる田んぼの活動において、無農薬、冬期湛水という昔ながらの稲作を行った。収穫祭では、もちつき体験と草木染めの実演をボランティアと協働で行い、里山の衣食についての文化を楽しく学べる場を提供するとともに、公園と地域の子供たち、ボランティアとの交流の場として地域に根付いた協働の活動とすることができた。 	A
41	小山内裏公園	A	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長沼公園では、公園職員とボランティア団体講師の案内によるキノコ観察会において、40種のキノコを通して、4歳から80歳までの幅広い参加者に対し、公園の生態系の豊かさを伝えるとともに、丘陵地ボランティアの存在と活動をアピールした。 ・長沼公園と平山城址公園を結ぶガイドウォーク「新緑の長沼・平山城址公園を歩こう」では、例年、両公園の間に位置する近隣大学の敷地を迂回するルートで実施していたが、一昨年から大学の敷地への働きかけの結果、大学の協力が得られ、長沼公園と平山城址公園を結ぶ大学の敷地内を通行可となる尾根道ルートが実現した。協働の取組によって「長沼・平山城址公園を歩こう」イベントの魅力を高めることに成功した。 ・小山田緑地の特徴を生かした楽しく学んで育む「田んぼ活動」では、関係団体と公園による環境学習プログラムなど協働のメリットを十分に活かした取組を行った。参加者は過去最高の約1,200人を数え、公園が核となった協働によるコミュニティづくりとして成果を上げた。 ・小山内裏公園では、これまで行ってきた協働育児事業「ゆうゆうくらぶ」を開催した。近隣学校の保育実習生が参加するなど新たな連携により、主催者、利用者及び実習生という新たなコミュニケーションが生まれ、交流の場を創出した。また、初めてサンクチュアリガイドツアーを実施し、安全管理の工夫や重要性を伝えるとともに、サンクチュアリの保全だけではなく活用面からの管理運営にも取り組んだ。 ・桜ヶ丘公園では、雑木林ボランティアと協働で運営する1年間にわたる田んぼの活動において、無農薬、冬期湛水という昔ながらの稲作を行った。収穫祭では、もちつき体験と草木染めの実演をボランティアと協働で行い、里山の衣食についての文化を楽しく学べる場を提供するとともに、公園と地域の子供たち、ボランティアとの交流の場として地域に根付いた協働の活動とすることができた。 	A
42	桜ヶ丘公園	A	<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長沼公園では、公園職員とボランティア団体講師の案内によるキノコ観察会において、40種のキノコを通して、4歳から80歳までの幅広い参加者に対し、公園の生態系の豊かさを伝えるとともに、丘陵地ボランティアの存在と活動をアピールした。 ・長沼公園と平山城址公園を結ぶガイドウォーク「新緑の長沼・平山城址公園を歩こう」では、例年、両公園の間に位置する近隣大学の敷地を迂回するルートで実施していたが、一昨年から大学の敷地への働きかけの結果、大学の協力が得られ、長沼公園と平山城址公園を結ぶ大学の敷地内を通行可となる尾根道ルートが実現した。協働の取組によって「長沼・平山城址公園を歩こう」イベントの魅力を高めることに成功した。 ・小山田緑地の特徴を生かした楽しく学んで育む「田んぼ活動」では、関係団体と公園による環境学習プログラムなど協働のメリットを十分に活かした取組を行った。参加者は過去最高の約1,200人を数え、公園が核となった協働によるコミュニティづくりとして成果を上げた。 ・小山内裏公園では、これまで行ってきた協働育児事業「ゆうゆうくらぶ」を開催した。近隣学校の保育実習生が参加するなど新たな連携により、主催者、利用者及び実習生という新たなコミュニケーションが生まれ、交流の場を創出した。また、初めてサンクチュアリガイドツアーを実施し、安全管理の工夫や重要性を伝えるとともに、サンクチュアリの保全だけではなく活用面からの管理運営にも取り組んだ。 ・桜ヶ丘公園では、雑木林ボランティアと協働で運営する1年間にわたる田んぼの活動において、無農薬、冬期湛水という昔ながらの稲作を行った。収穫祭では、もちつき体験と草木染めの実演をボランティアと協働で行い、里山の衣食についての文化を楽しく学べる場を提供するとともに、公園と地域の子供たち、ボランティアとの交流の場として地域に根付いた協働の活動とすることができた。 	A

グループ名	大神山公園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
43	大神山公園	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔地にもかかわらず、予算を効率的に使って管理運営に努めている。 ・小笠原諸島に大型台風が5回襲来したが、樹木点検及び日常巡視を通じ危険木の早期発見と除去に努め事前対策を行ったことで、重大事故はゼロに抑えられた。また、委託業者や島内関係各所との協力体制の下で、迅速な事後処理を行ったことで、島内の多くの施設が完全な復旧までに2か月以上を要した中で、大神山公園については、1か月以内に全ての通行路を開通させることができた。 ・地元小学校の総合学習や高等学校との連携による外来種駆除など地元の子供たちとの交流が促進された。 ・専用サイト「自然公園へ行こう！」を活用し大神山公園の情報発信を行うとともに、平日は毎日ツイッターを更新し、情報拡散効果を高めた。その結果、ホームページ表示回数は16,501ページビュー(PV)から32,847PVへと大きく伸び、ツイッターのフォロワー数も500人から916人へ増加した。今後も自然環境保全意識の醸成と大神山公園の魅力発信に努めてほしい。 ・委託業者の確実な安全管理のため適宜実施指導を行ってきたのにもかかわらず工事請負業者による事故が発生した。事前ミーティングにおける危険箇所や安全な作業方法の確認の徹底等、再発防止策を講じ、以後、同様の作業を含め全ての作業において安全に工事を実施した。 <p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全意識の醸成と映画上映の感動を伝えることを目的とした「ピオ・アース映画祭」をお祭り広場で開催し、公園が発信するメッセージの浸透に貢献した。 	B

グループ名	青山葬儀所
指定管理者名	日比谷花壇グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
44	青山葬儀所	B	<p>【管理状況】 経費縮減や長寿命化の観点から、吸収式冷温水機のオーバーホールを利用者の立場に立って適期に実施した。また、施設の老朽化が進み、日常のメンテナンスや対症療法的な補修では対応が難しい状況にある中で、利用者の気持ちに寄り添い細やかなサービス提供を心掛けている点は評価できる。</p> <p>【事業効果】 ・ホームページの大幅リニューアルを実施し、施設内360°のパノラマ画像の実装やトップページの改修、スマートフォントップページの制作により利用者のアクセシビリティ向上に寄与した。これらの工夫により、施設見学への誘導に成功するなどの成果を上げた。 ・施設改修やHPのリニューアルなど営業努力を行ったが、新型コロナウイルスの影響もあり、利用件数、都への納入金ともに目標値に達しなかった。</p>	B

グループ名	防災公園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
45	東白鬚公園	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、早朝、夜間等防災想定を変えた年3回の全体訓練を実施するなど、大規模救出救助活動拠点の機能を発揮するための取組を行っている。また、近隣の施設・団体に防災訓練の参加を積極的に働きかけている。 ・参加型花壇づくりへの積極的取組は評価できる。一方、昨今のガーデニングブームの高まりもあり、参加者が高いレベルのガーデニング活動を要望していることから、地域のガーデナーなどの協力を得て、参加者、公園利用者ともにより満足度の高い活動を実施していくことが期待される。 ・東白鬚公園では、公園内に立地する中学校との連携防災訓練を初めて実施した。また、防災船乗船訓練を実施し、13町会・自治会の参加者に対し、防災船の機能や新たに整備された白鬚東発着場の解説をすることができた。 ・代々木公園では、年間110件を超えるイベント、集会等の使用に関し、都と協議し、主催者の意見も踏まえた実効性のある占用ルールを新たに整備し、適切な指導を行い、園地の適正利用に努めた。 ・篠崎公園では、子供を乗せた電動アシスト付き自転車での公園入口の通過が困難という要望に対し、通行量が多い出入口の車止めを交換した。また、アジサイ園整備を進めているが、今年度は新たに公園入口からアジサイ園に通じる園路沿いにボランティアと協働でアジサイを植栽し、アジサイロードとして整備した。 ・葛西臨海公園では、障害がある方にも参加してもらえる防災訓練を初めて実施した。加えて、長年にわたりバイクと自転車が混在して駐輪されていた一部園路の状況を改善するため、都や地元区と調整し、バイク置き場の園内移設を実現した。また、東京2020大会へ向けて、カヌースラローム会場へのラストマイルを整備し良好な見通しを確保するとともに、海外からのお客様へのおもてなしとして日本庭園の生垣の切り戻し、樹木剪定、四つ目垣設置等を行い、景観向上を図った。 ・武蔵野中央公園では、見学を兼ねた武蔵野市役所備蓄倉庫からの災害時備蓄用飲料水・缶詰、炊出釜（災害用異動炊飯器）の搬出訓練を実施した。 ・府中の森公園では、公園から積極的に各自治体や近隣施設へ防災普及活動についてアプローチし、防災意識を高めた。防災訓練等を通じて、関係機関と顔の見える関係を構築し、防災公園の意義や活用について情報発信を行い、地域の防災対応力向上に寄与した。 ・秋留台公園では、子ども向け防災プログラムの提供や、新コンテンツ「防災施設紹介」など、日頃から効果的にデジタルサイネージを活用し、いざという時の情報ツールを地域住民をはじめ多くの来園者に周知した。 ・舎人公園において誤って使用料を減免するミス及び公金の納付遅延、水元公園において、公金の納付遅延が発生した。その後、収納確認、納付確認方法の見直し、全社的な公金取扱手順の再確認を行っており、この取組を徹底し、再発防止に努められたい。 ・舎人公園において、委託業者による草刈作業時の立入禁止ロープへの自転車利用者の接触及び転倒事故、水元公園において、委託業者による草刈作業による駐車車両のフロントガラスを傷つける飛び石事故、小金井公園において、園内作業用車両と自転車利用者との接触事故が発生した。その後、安全教育の実施、園内通行ルールの徹底、事故情報の共有等を行っており、この取組を徹底し、再発防止に努められたい。 	B
46	木場公園	B		B
47	砧公園	B		B
48	駒沢オリンピック公園	B		B
49	代々木公園	A		A
50	善福寺川緑地	B		B
51	和田堀公園	B		B
52	汐入公園	B		B
53	城北中央公園	A		A
54	光が丘公園	B		<p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの公園で「パークミーティング」等を開催し、地域との連携を図っているが、今後は、意見交換だけに終わらず、地域課題を掘り下げて共有する中で、課題解決に向けての目標を議論し、具体的なアクションが生まれることが期待される。 ・砧公園では、7月に実施した地域連携防災訓練において、近隣の学校への粘り強い働きかけにより、今年度より初めて学校との連携訓練が実現した。 ・代々木公園では、例年実施しているパラフェスタにおいて、フォトプロップスの設置やアロマクレンジャー作りのワークショップなど、新たなコンテンツを用意したことにより、5月の実施時は昨年の4倍増の参加者となり、園内バラ園の更なる魅力向上に寄与した。また、渋谷区が実施する総合防災訓練にて、避難場所の安全点検や避難者受入れ等に関するデモンストレーションを組み込むなど、初めて公園管理者が主体的に区の防災訓練との連携を図るとともに、公園の防災機能や取組について広く周知した。さらに、新型コロナウイルス感染防止として、桜花期対策を図るため、急きょA地区の封鎖措置を行うこととなったが関係団体への連絡、協力要請また利用者等への対応も細やかにい混乱の防止に努め、閉鎖期間中は警備員を増員するなど適切な管理を行った。 ・和田堀公園における防災フェスタでは、ここ数年豪雨による水害についての関心が高まっていることから、土嚢づくり体験などの新しいコンテンツを用意し、参加者のニーズに応えるとともに、地域の防災力の向上に寄与した。 ・城北中央公園の「防災フェスタ」では、親子で楽しめる新たな体験プログラムを提供し、地域の防災対応力の向上と共助意識の醸成を図った。また、園内で東京2020大会機運醸成イベントが開催された際は、都や主催者と事前の入念な打ち合わせにより調整を図り、施設管理者として適切かつ丁寧な助言を行うとともに、イベント当日は他の公園利用者への支障とならないよう現場の監督や指導を行った。
55	舎人公園	B	B	
56	水元公園	B	B	
57	篠崎公園	A	A	
58	葛西臨海公園	S	S	
59	武蔵野中央公園	B	B	

No.	施設名	一次評価	二次評価		
			評価内容	評価	
60	府中の森公園	A	<p>・舎人公園では、都や足立区と連携して、「千本桜まつり」を開催した。子供向けプログラムとしてエア遊具や、初めて「さくら巡りスタンプラリー」を行うなど、地域の子供たちに遊び場を提供し、桜の名所としての公園の魅力向上に努めた。2日間で約23万人が来園し、住民やボランティア等の多様な主体と連携して開催することで、地域一体となり賑わいを創出した。</p> <p>・篠崎公園における、「食とスポーツのハーモニーフェスティバル2019」では、全体の費用を抑えながらも、DJやMCによる音響効果を取り入れた会場の雰囲気作りや車いすバスケットボール体験などプログラムの充実を図ることで、昨年度比1.6倍の6,500人の参加者を記録した。また、江戸川区花火大会における安全対策として、対策を万全に行った結果、トラブルや事故等が1件もなく終了することができた。</p> <p>・葛西臨海公園では、例年1日間で実施しているサマーフェスタを2日間開催し、新たに近隣の就労支援団体や江戸川区からの出展も増え、公園の賑わい創出及び魅力向上に寄与した。また、ゴールデンウィーク期間の渋滞対策や東京2020大会期間の対応状況などについての連絡調整会議等により、近隣施設や関係各所と情報共有を行い、連携強化及び混乱防止につなげることができた。</p> <p>・府中の森公園では、ラグビーワールドカップ2019日本大会の機運を盛り上げるため、様々な団体と連携し、サッカー場を活用した「ラグビーフェスタ」を開催した。</p> <p>・武蔵野の森公園では、「サイクルフェスinむさ森」を開催し、東京2020大会機運、自転車競技普及機運を強く後押しできた。また、東京2020大会事業や自転車ロードレーステストイベント開催に関して、会場管理者として、大会組織委員会をはじめとする関係者への対応、植栽等の整備、当日の会場警備や臨時駐輪場増設対応などを通してイベントの成功を強力に支え、事故・苦情ゼロを達成し、本大会への準備推進に貢献した。</p> <p>・東大和南公園の「防災情報連絡会議」では、地域の住民が主体となり、訓練内容の見直しを図り、新たに車常備のジャッキ利用の救出救助や暗闇避難訓練を取り入れた。参加者面では、新たに8か所の自治会が加わった。</p> <p>・秋留台公園では、「第5回ユニバーサルスポーツ祭」を実施した。例年3月に開催していたが、参加した団体から、寒い時期の参加が大変なので開催時期を変えてほしいという声を受け、関係機関や協力団体等と検討と調整を重ね、5月開催とすることができた。</p>	A	
61	武蔵野の森公園	S		S	
62	小金井公園	B		B	
63	東村山中央公園	B		B	
64	東大和南公園	B		B	
65	秋留台公園	A			A

グループ名	文化財庭園グループ
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
66	浜離宮恩賜庭園	S	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各庭園において、保存管理計画、史資料及び庭園有識者の助言をもとに景観向上に取り組んでいる。また、庭園景観を未来につなげる管理者としてのノウハウを蓄積し、庭園技能の継承や向上を図った。今後は各公園においてスポット毎のランドスケープの深化と水との更なる融合（例えば浜離宮では船を浮かべて移動し、催し物を行う等）が望まれる。 ・浜離宮恩賜庭園では、台風19号により大きな被害を受けた「松の茶屋」について、迅速に被害状況の調査及び応急処置を施すなど、適切な緊急時対応を行った。特に、障子が破れたことにより貴重な襖に雨染みができるなど補修方法に苦慮したが、雨戸の補修、畳の表替え及び張付壁と襖の張替えを行うことにより、美しい元の姿を取り戻すことができた。また、古絵図を参考とした作庭意図を考慮した修景を進め、文化財価値を向上させた。 ・小石川後楽園では、「蓬莱島」の大規模剪定により、島全体のラインが見えるかつての姿に復元され、主要景観が向上された。また、主要景観の1つである「通天橋」について、橋脚部の腐朽が急速に進んでいたことから、文京区教育委員会、教育庁及び文化庁との調整及び事前協議を着実に進めた上、短期間で安全に通行できる状態に補修し、美しい橋の姿へと復旧することができた。 ・向島百花園では、「庭園の本質的価値を構成する梅林再生の取組」として、初代園主が著した資料に基づき、梅の古典品種の確保と補植に取組むなど、作庭の意図を尊重した維持管理が行われている。 ・清澄庭園では、長年の懸案事項であった児童公園多目的広場の独占的、不適正な利用について、都と連携して粘り強く説得を続け問題を解決した。また、園内で最も高く大きな築山である「富士山」の存在感を高めるため、背後の建物の遮蔽効果を検証しつつ、稜線を不明瞭化している高木を伐採するなど景観改善に努めた。 ・旧古河庭園では、護岸の補修と地被の補植を併せて実施することで、心字池の核である中島全体の景観が改善され、心字池の景観の大幅な魅力向上につながった。 ・旧芝離宮恩賜庭園におけるFAX誤送信、小石川後楽園における一時占用料の誤徴収が発生した。その後、送付方法の見直し、送付時複数確認等、改定後の占用料との差額の追加徴収、事務処理方法の再確認等の対策を行っており、再発防止に努められたい。 <p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜離宮恩賜庭園における「鷹の御茶屋」公開一周年記念事業では、「東京都における文化財庭園の保存活用計画書」にある「鴨場」の活用に取り組み、鷹の園内巡回の中で鷹狩や鴨猟の方法等を伝え、庭園の魅力向上を図った。また、「浜離宮大江戸文化芸術祭」では、文化庁及び公益財団法人東京都歴史文化財団からの助成金に加え、民間業者から協賛金を募って実行委員会形式で開催した。浴衣・和装の方を無料入園とするなど、来園者にも演出に一役かっただいたばかり、武道や華道、邦楽演奏などの日本伝統文化に加え、ライトアップなど、様々なコンテンツにより日本文化を発信し、庭園の魅力向上に大きく貢献した。イベント開催3日間で1万人が来園し、庭園の多面的活用を推進する事業となった。また、産業労働局及び東京ロケーションボックスより協力依頼のあった中国映画の撮影対応において、都・東部公園及び東京ロケーションボックス担当者、製作会社、中央区文化財担当者と文化財保護の観点からきめ細かい打合せを行い、現状変更手続における作業指示や安全対策等を的確に指導して実施した。 ・旧芝離宮恩賜庭園では、一般社団法人竹芝エリアマネジメントと共催で、「江戸夏夜会」、「江戸秋夜会」と題したライトアップイベントを初めて本格開催した。前年度の試行開催と比べ、共催者や協賛社などが4社増えるなど、地域連帯を推進するとともに、ライトアップにより日本庭園の持つ和の魅力の向上を図った。 ・小石川後楽園の「瘞鶴碑建立200年記念行事」では、歴史的背景を踏まえながら庭園の資源掘り起こしを意図した内容のイベントを実施した。鷹の放鷹術や初めての取組として水戸藩にまつわる「詩吟の公演」、鷹の形のあめを作る「あめ細工教室」等、後楽園ならではの催しを実施して庭園の魅力発信を行った。 ・六義園の「しだれ桜と大名庭園のライトアップ」では、照明デザインを一新し、作庭意図を踏まえて陰影をつけた幻想的なライティングや色の変化の演出等を行う等、イベント内容に工夫が見られ、庭園の魅力向上につながった。 ・清澄庭園の「ゴールデンウィークの催し」において、大正記念館内にお休み処を開設し、新メニューの導入など利用者サービスの向上に努めたほか、親子工作教室では外国人参加者も含め規模を拡大して参加者を受け入れるなどイベント内容を充実させた結果、イベント参加者が前年比115%（期間中入園者数は前年比133%）となった。 	S
67	旧芝離宮恩賜庭園	B		B
68	小石川後楽園	A		A
69	六義園	B		B
70	旧岩崎邸庭園	B		B
71	向島百花園	B		B
72	清澄庭園	A		A
73	旧古河庭園	B		B
74	殿ヶ谷戸庭園	B		B

グループ名	神代植物公園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
75	神代植物公園	A	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 域外で保全した植物を現地に植え戻す画期的な取組として、植物多様性センターで増殖させたエビネの苗を初めて新島村のエビネ公園に植え戻すことに成功した。 <p>【事業効果】</p> <p>江戸園芸植物の高い技術力継承に努め、国内への発信だけでなく海外への発信を目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年に引き続き、国立天文台やNPO法人と連携し、芝生広場で夜の天体観測会を発展させたほか、夏季には、新たに地元深大寺地区のイベントと連携した大温室夜間開放を実現する等、夜間利用を拡大させた。 地元音楽大学や高等学校、音楽家と連携したコンサートをはじめ、季節のイメージに合わせたプロのアーティストを招いてのフローラルコンサートを計13日開催し、延べ14,000人の聴衆を集め、音楽を通じて植物への関心と満足度を高め、利用促進を図った。 キャッシュレス導入にあたり、都の工事等の環境整備に協力するとともに、書式整備や、細部にわたる事務処理方法の確立、売札職員の研修等を行い端末の円滑な導入と運営に率先して協力した。 栽培職員が培った技術を活かし、植替えや的確な肥培管理を行った結果、全国の植物園でも開花がまれな世界最大の花シヨクダイオオコンニャクが4年ぶりに開花し、多くの来園者へ公開することができた。 	A

グループ名	夢の島公園・夢の島熱帯植物館
指定管理者名	アメニス夢の島グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
76	夢の島公園	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢の島公園では、東京2020大会に向けての工事に伴い、工事業者による施設損傷などへの対応、工事情報の発信、利用者からの問い合わせ対応等を適切に実施したほか、来園者の安全に配慮しながら、限られたスペースでのイベントやプログラムの積極的な実施による公園や植物館の利用促進を図った。 ・夢の島熱帯植物館では、過年度の経験を基に、施肥の時期や回数を工夫することで、花木や果実の開花結実が一年を通して見られた。また、夜間開館に合わせて、夜咲く花や香りのする花の展示を行うことができた。さらに、希少種の保全については、適切に維持管理を行い、小笠原関連植物等希少性の高い植物の繁殖を積極的に行った。加えて、外のベンチは色を変えただけであるが、周囲とのバランスが取れた良い試みである。 <p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢の島公園では、アーチェリーをモチーフとした夏花花壇を整備するとともに、植え付け、メンテナンス、アレンジ教室、勉強会等、参加型のイベントを数多く企画した。また、職場訪問・職場体験の受入れを年間を通して実施するなど、関係機関や地域との連携強化を図った。 ・夢の島熱帯植物館では、マスメディアによる広報活動を積極的に活用したことで、夜間開館の来館者数が前年比180%の大幅増となる成果を上げた。また、LINEアプリやInstagramによるイベント・開花情報の発信を行い、イベントに関する問い合わせや参加者の増加につなげた。さらに、ガイドアプリ「Yume Netsu Guide」をリニューアルし、英語版の音声ガイドの追加やアンドロイド端末への対応も開始し、利用者の利便性を向上させた。加えて、エチオピア連邦民主共和国大使館の協力によるイベントを新規開催し、エチオピアのバラの展示や現地の楽器、民族衣装などを用意することで、多くの来園者に普及を図るとともに、大使の来館もあり、エチオピアとの友好関係強化に寄与するなど、質の高い企画展示を行った。 	B
77	夢の島熱帯植物館	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢の島公園では、東京2020大会に向けての工事に伴い、工事業者による施設損傷などへの対応、工事情報の発信、利用者からの問い合わせ対応等を適切に実施したほか、来園者の安全に配慮しながら、限られたスペースでのイベントやプログラムの積極的な実施による公園や植物館の利用促進を図った。 ・夢の島熱帯植物館では、過年度の経験を基に、施肥の時期や回数を工夫することで、花木や果実の開花結実が一年を通して見られた。また、夜間開館に合わせて、夜咲く花や香りのする花の展示を行うことができた。さらに、希少種の保全については、適切に維持管理を行い、小笠原関連植物等希少性の高い植物の繁殖を積極的に行った。加えて、外のベンチは色を変えただけであるが、周囲とのバランスが取れた良い試みである。 <p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢の島公園では、アーチェリーをモチーフとした夏花花壇を整備するとともに、植え付け、メンテナンス、アレンジ教室、勉強会等、参加型のイベントを数多く企画した。また、職場訪問・職場体験の受入れを年間を通して実施するなど、関係機関や地域との連携強化を図った。 ・夢の島熱帯植物館では、マスメディアによる広報活動を積極的に活用したことで、夜間開館の来館者数が前年比180%の大幅増となる成果を上げた。また、LINEアプリやInstagramによるイベント・開花情報の発信を行い、イベントに関する問い合わせや参加者の増加につなげた。さらに、ガイドアプリ「Yume Netsu Guide」をリニューアルし、英語版の音声ガイドの追加やアンドロイド端末への対応も開始し、利用者の利便性を向上させた。加えて、エチオピア連邦民主共和国大使館の協力によるイベントを新規開催し、エチオピアのバラの展示や現地の楽器、民族衣装などを用意することで、多くの来園者に普及を図るとともに、大使の来館もあり、エチオピアとの友好関係強化に寄与するなど、質の高い企画展示を行った。 	B

グループ名	潮風公園・台場公園
指定管理者名	東京臨海副都心グループ

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
78	潮風公園	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、一体管理を行っているお台場海浜公園と連携し、効率的に防災訓練や自主事業を実施している。 ・潮風公園では、組織委員会の東京2020大会会場整備工事により、園内の状況が日々変化していく中で、来園者への影響を最小限に抑えるべく、都や工事事業者との情報共有を積極的に行い、工事範囲や期間を現地での掲示やHP及びSNSを活用して周知に努め、工事中の苦情を0件に抑えることができた。また、イベント等に関しても、使用場所を変更する必要がある例年実施事業について、代替地・代案で実施するとともに、中止の場合には早いうちに周知することにより事業を滞りなく実施した。 <p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮風公園では、7月に実施した東京2020大会のテストイベントについて、知事や都議員連盟の視察などがある中、東京都や組織委員会等の関係機関と連携し、熱中症やテロ対策に努め、円滑な大会運営に寄与した。また、大会後に施設管理者の視点から課題や懸案事項を組織委員会に情報提供し、本大会に向けた連携強化を図った。さらに、マラソンイベント等が中止される中、新たな新規イベントを2件実施した点は評価に値する。 	B
79	台場公園	B	<ul style="list-style-type: none"> ・台場公園では、昨年度に引き続き「東京文化財ウィーク2019」の期間中、キャンドルライトでのライトアップを実施し、近隣の大型イベントとの相乗効果で開催期間中の来園者数が、昨年度比86%増の5,302人となった。こうした文化財の保全と利活用を図る公園として地道に努力を続けた成果として、旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」運営者から「エクセレンス認証」（5段階中4以上の評価を維持していると受賞できる認証）を5年連続で贈呈された。当該サイトは世界48カ国・28言語でサービスを展開しており、多くの訪日外国人旅行者に公園の魅力を発信し、利用促進につなげている。 	B

グループ名	横網町公園
指定管理者名	公益財団法人東京都慰霊協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
80	横網町公園	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本庭園の松の雪吊り設置や秋の七草コーナーの育成継続のほか、草刈り・除草、常緑・落葉株物手入れ等を当初計画より回数を増やし、きめ細かく作業を行い、良好な公園環境・景観の提供に努めた。 <p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの全面リニューアルによりアクセシビリティ向上に寄与したとともに、各種マニュアルの活用や、案内ビデオへのテロップ入れによって外国人や聴覚障害者の方への対応を図るなど、案内ガイド等の充実に努めた。また、復興記念館特別展「戦争だからがまんしました。」の開催や地域の慰霊碑などを巡る「まち歩きガイドツアー」の実施など、震災・戦災の記憶の継承に寄与した。 ・「第7回首都防災ウィーク」では、市民団体の発表、関東大震災100年に向けた防災特別講演、震災対策を考える「防災フォーラム」等様々な企画を実施し、多くの人に公園の存在意義を明確に発信した。 ・特別展「関東大震災写真の謎」では、震災直後の大混乱に陥った状況下で、なぜ多数の捏造写真が作られたのか謎を解明するとともに、現代でも起こり得る事象として警鐘の一助となった。これら「深い視点」からの歴史の掘り下げは非常に評価できる。今後の当該公園のアピールの仕方の一方向を示すものであろう。 ・都施工の復興記念館外装改修工事において、調査研究員のスキルを活用し、怪獣像の創造的復元に協力を行った。 	B

グループ名	東京臨海広域防災公園（平成31年4月1日～令和2年1月31日）
指定管理者名	西武造園株・(株)NHKアート共同体

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
81	東京臨海広域防災公園	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹的広域防災拠点として機能できるよう、来園者の避難、園地開閉、通報等の訓練を国営公園側と連携して定期的を実施し、発災時の備えに努めている。 <p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊具等はないが、広大な園地を活かし、移動式動物園の実施、玩具の貸出しによるプレーパークの開催、気球イベントの実施等創意工夫による特色ある取組が定着し、公園の魅力を高めている。 ・9回目の開催となった「ぼうさいモーターショー」では、警察、消防、米海軍等との協力による防災関係車両の展示のほか、新たにアニメ実写映画のロボット模型やVR防災体験車など話題性のある展示物を追加したところ、昨年度比1,000人増の過去最高となる2,700人の入場者を記録し、より広く防災学習の機会を提供することができた。 	B

グループ名	東京臨海広域防災公園（令和2年2月1日～3月31日）
指定管理者名	西武造園株式会社

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
81	東京臨海広域防災公園	B	<p>【事業効果】</p> <p>・2月以降の管理で期間が短く、新型コロナウイルス感染症対策も発生しているが、対策内容が日々変化中、その都度、利用者等へ迅速かつきめ細かな対応をすることにより、大きな混乱を生じることなく管理を行った。</p>	B

グループ名	都立動物園
指定管理者名	公益財団法人東京動物園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
82	恩賜上野動物園	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恩賜上野動物園でFAX誤送信による個人情報流出事案が発生した。情報管理体制が不十分であるため、再発防止を徹底されたい。 ・多摩動物公園で、インドサイ舎における職員の死亡事故が発生した。また、アフリカゾウの治療中に職員がケガをする事故や、剪定作業時にチェーンソーにより職員が負傷する事故も発生した。作業体制の安全確保が不十分であるため、再発防止を徹底されたい。 <p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体では、新型コロナウイルス感染症対策として、恩賜上野動物園及び葛西臨海水族園では2月29日から臨時休園となったが、休園中の動画配信を強化するなど映像を通じた各種試みは、来園を待ち望んでいる人たちへの宣伝効果は大きいと言える。当該試みは引き続き次年度につなげて頂きたい。また、教育普及活動の体制強化のため、教育普及センターを設置しシンポジウムを開催した。新たな教育普及事業方針の発表や各園における学びをテーマにし、動物園水族館における社会教育機能の促進に寄与した。また、現在深刻な問題となっている海洋プラスチックごみ問題への対応の一環として、レストランやギフトショップ等における使い捨てプラスチック製品の使用量削減に取り組むイベントを実施することにより、来園者の環境意識の向上に寄与した。 	B
83	多摩動物公園	C	<ul style="list-style-type: none"> ・恩賜上野動物園では、東京2020大会を見据え、1月より「Tokyo Zoo Welcome Center」を設置し、訪日外国人来園者に対して、英語・中国語での園内や周辺観光情報案内、ガイドツアー等を実施、多様な来園者への利便性向上に取り組んだ。また、QRコード決済の実証実験に取り組み、キャッシュレスの促進に寄与した。さらに、モノレール休止の代替措置としてのシャトルバス運行を行った。 ・多摩動物公園では、コアラによるベアリングを進め、8年ぶりにコアラが誕生した。また、繁殖した6羽のトキを「佐渡トキ保護センター」へ搬出したほか、貴重な野生保護個体のアカガシラカラスバトが初繁殖するなど、保護増殖事業に貢献した。さらに、オーストラリア森林火災被害への募金を開始し、支援金をオーストラレーシア動物園水族館協会へ送金した。 	C
84	葛西臨海水族園	A	<ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海水族園では、ウィーディーシードラゴンが繁殖し国内初の育成に成功したほか、メンダコの孵化個体の飼育最長記録を達成するなど、高い飼育技術により希少生物の繁殖に努めた。また、新たにイタチザメを導入し葛西臨海水族園での飼育記録を更新するなど、展示の拡充にも力を注いだ。さらに、東京2020大会に向けたICT技術の実証実験として、多言語での解説が可能なエンタテイメント案内ロボット「ペリン」を導入し、訪日外国人来園者他への園内案内を実施、来園者の利便性向上を図った。 ・井の頭自然文化園では、新たに配置した学芸員により彫刻館の特設展等を実施したほか、「文化園＝春のリスまつり」を開催し、リスの小径オープン30周年を記念したイベントとして様々な企画を実施し、日本有数の施設であるリスの小径を中心に魅力を発信した。 	A
85	井の頭自然文化園	B		B

グループ名	都立霊園
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
86	青山霊園	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、都の供給計画に基づく公募、霊園再生や新形式墓地の整備など、都の政策との連動制が極めて高い中で、霊園管理システムの運用など施設管理運営に取り組んでおり、8霊園一体とした統一的なサービスの提供が図られるなど、施設の特性を踏まえた適切な管理運営が行われている。 ・八柱霊園では、松戸市に働きかけ、園内の外周沿いの高木の剪定・伐採と隣接する市管理の街路樹剪定とを連携して行うことにより、外周街路の安全確保と景観向上を図った。 ・八王子霊園では、墓域に隣接した樹林地の林床整備を実施したことで、芝生地への樹林地の影響軽減と景観の維持を図ることができた。また、山林の健全な管理と育成を行うため、約2haの萌芽整備と下草刈りを実施したことで、日光が林の中まで入ることにより、山林が若返り、日陰により休眠していた草花や昆虫の回帰を促すことができ山林の健全な育成と景観の向上につながった。さらに、長期的な試みであるが、イノシシ対応は一定の成果が得られている。加えて、台風19号により法面崩落が発生し、23か所の墓所に影響があったが、復旧対応を実施した結果、彼岸期までに復旧させることができた。 ・多磨霊園では、火災防止について、視認性の高い新しい周知看板の設置、近隣石材店と連携した注意喚起チラシの配布等、火災予防の啓発を行った結果、火災発生を0件に抑えることができた。 ・小平霊園では、要注意外来生物であるトウネズミモチの大木が約200本繁茂することにより、生態系に悪影響を及ぼすだけでなく、近隣の日当たりや見通しが悪くなり、不法投棄を誘発するなどの管理上の問題が発生していたが、ほぼすべて（196本）を伐採することで管理状況を改善するとともに、公園墓地としての景観を向上させた。また、芝生火災予防の取組として、園内放送での呼びかけ等に加え、火種落下防止のための「竹製の線香筒」を設置するとともに速やかに消化できるように水場すべてに50mホースを常備し、緊急に駆けつける際の消防器具（水タンク・噴霧器・ホース等）を搭載したトラックを準備した。 ・多磨霊園では、昨年度に引き続き、みたま堂エレベーターシャフト下底の浸水がありエレベーターが使用禁止となった。施設の維持管理を適正にされたい。 ・八王子霊園では、委託警備員が開門を2時間遅れ、墓参者が入園できない事案が発生した。警備会社との緊急連絡体制の確保、開門業務の確実な履行等について改善し、再発防止を徹底されたい。また、PCB機器の再々調査を行ったところ、過去調査の際に見逃されていたPCB入りの蛍光灯安定器が2基、使用廃止していた建物に残置されていることが判明した。 <p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体として、新規貸付業務にチャットボットの試験導入を行い、夜間の対応を可能にした。ユーザー数1,916名、質問数6,944件と多数の利用があった。また「申込みのしおり」を改定し、インターネット申込み者の増加や、失格者の減少に寄与するなどサービス向上が図れた。 ・多磨霊園では、東京2020大会で行われるロードレースのテストイベントにおいて、通行規制看板の作成・設置や交通誘導等の協力・補完を行い、安全を確保するとともに、本大会の成功に向けて貢献した。 	B
87	谷中霊園	B		B
88	雑司ヶ谷霊園	B		B
89	染井霊園	B		B
90	八柱霊園	B		B
91	八王子霊園	B		B
92	多磨霊園	A		A
93	小平霊園	B		B

グループ名	瑞江葬儀所
指定管理者名	公益財団法人東京都公園協会

No.	施設名	一次評価	二次評価	
			評価内容	評価
94	瑞江葬儀所	B	<p>【管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火葬の際に発生する黒煙抑制のため、炉への酸素供給を自動化する装置を導入し、黒煙の発生を減少させることができた。 ・施設管理者として主体となって新型コロナウイルス感染症対策を実施し、安心・安全な施設管理に努めた。職員の感染防止の徹底と、施設利用者への感染拡大防止のため産業医の立会いのもと現場のリスク分析を行ったうえで対策に取り組み、新型コロナウイルス感染症で亡くなった方の火葬をいち早く受け入れた。新型コロナウイルス感染症対応では、従来策定した新型インフルエンザ事業継続計画（BCP）がよい判断材料となったと思われる。感染力の問題で改定は必要であったと思われるが、事前のリスク認識は評価できる。今年度は、これまでの経験を活かし、更なる安全性に努めるだけでなく、会葬者の心情に配慮した対応（会葬者の数を極端に限定したりしない等）が望まれる。 ・誤った領収書を発行し、葬儀社21社に対して領収書の差し替えを行う事案があった。管理監督職による帳票確認の強化などにより、再発防止を徹底されたい。 <p>【事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年実施している排気ガスの測定結果報告のほか、黒煙発生対策工事、ブロック塀工事、火葬料金改定等の重要事項について都と連携して地元4町会と意見交換を行った。施設の業務を円滑に運営するためには、近隣住民の理解が不可欠であるが、日頃より地元町会や地域住民との信頼関係を築く地道な努力を行った。江戸川消防署立会いによる実践的自衛消防訓練を実施し、防火設備等の点検を受けて優良防火対象物の認定を更新した（優良防火対象物の認定は10年間継続）。 ・東京都の炉の改築計画策定に向け、随時資料提供や視察対応を行うとともに、現在の施設の状態や利用実態についての詳細報告や、会葬者動線等についての提案など、老朽化対策基本計画の策定に貢献した。 	B